

# 2021年度上半期に発生し、日本でも報道された世界の主要な災害

## ～現時点でファンドへの影響は軽微～

### <災害とCAT債市場への影響>

8月末に発生したハリケーン「アイダ」がカテゴリー4と大型の勢力で米国ルイジアナ州へ上陸、その後北上してニューヨーク州やニュージャージー州へ記録的な豪雨をもたらした日本でも話題になると共に、関連するCAT債の市場価格下落につながりました。同じく米国では、6月下旬以降カリフォルニア州、オレゴン州などで例年同様に山火事が発生し、中には10月まで延焼が続くものもありましたが、単独でCAT債市場へ大きな損失を及ぼすまでには至りませんでした。また欧州では、7月中旬の数日間に亘り、ドイツを中心に欧州大陸諸国が動きの遅い低気圧による豪雨に見舞われ、洪水被害によりCAT債市場へも多少影響を与えました。

### <主要な災害とファンドへの影響（Fermat社の見通し）>

#### 1) ドイツ西部の洪水（7月）

- ・7月14日から15日にかけてドイツ西部各地で豪雨による洪水が発生。
- ・同洪水被害をカバーする銘柄の保有なし。（保険損害額は低く典型的なCATボンドでカバーされる規模ではない。）

#### 2) 欧州と米国で発生した山火事（8月）

- ・7月下旬から欧州南部で大規模な山火事が広がり、スペインやギリシャの地方部で被害が報道された。
- ・同災害をカバーする銘柄の保有なし。
- ・米国カリフォルニア州の山火事「ディキシー・ファイア（Dixie Fire）」に関する多くの報道があった。
- ・保険損失が生じる可能性は低く、複数災害をカバーする銘柄についても影響は非常に限定的と予測。

#### 3) ハイチ地震（8月）

- ・8月14日に中米カリブ海の島国ハイチ共和国でマグニチュード7.2の地震が発生。
- ・同地震をカバーする銘柄の保有なし。

#### 4) ハリケーン・アイダ（8月）

・米国ルイジアナ州に大型台風が上陸。  
・保険損失が150-250億ドルと推計し、そうなった場合にはファンドのポートフォリオへの元本毀損の影響は0.25-0.75%と予測。  
・一部の保険業界関係者から高額な洪水被害予測が発表された結果、関連するCAT債は売りが優勢となり、中でも全米洪水保険制度（National Flood Insurance Program：NFIP）をスポンサーとして発行され広く保有されている銘柄「FloodSmart」債は大きく値を下げた。しかし、NFIPが「アイダ」による損失推計額を10～20億ドルと公表すると、これが「FloodSmart」債の元本毀損に至る水準を遥かに下回っていた為、同銘柄の市場価格は良好な回復を示した。Fermatは同銘柄の値下がりを買入・トレードの好機と捉えて投資を実行。

#### 5) 米カリフォルニア州北部で発生した山火事「カルドア・ファイア」（9月）

- ・カルドア・ファイアは、高級リゾート地でもある米国カリフォルニア州タホ湖近辺（サウス・レイク・タホ地域）へ延焼。
- ・9月1日時点までの保険損失額を6.5億ドル程度と推計。保有銘柄への影響はないと予測。